

クニマスの保全並びに活用に関する研究（概要）

とりまとめ：青柳敏裕

2010年に西湖で発見されたクニマスの保護と活用を図るため、資源生態調査及び人工繁殖魚からの採卵試験を実施した。本研究は山梨県総合理工学研究機構課題研究として、資源生態調査を水産技術センター、人工採卵試験を同忍野支所、水環境調査を衛生環境研究所、産卵場水源の水文調査を富士山科学研究所が担当し、2015-2017年度にかけて実施した。本稿では資源調査の結果について示す。

結果の概要

ヒメマス・クニマス混合資源量から算定されたクニマス資源量（1歳以上）は、近年では概ね2,4千尾の範囲と推測された（図1）。資源推定値の変動に対して、試験採集時の平均釣果（CPUE）は概ね横這いで、推定値を反映しなかった（図2）。推定手法の前提（自然死亡及び漁獲死亡がヒメマスに等しい、湖全体的に混合比率が一定等）が実態を反映していない可能性があり、精度の高い推定は困難であった。

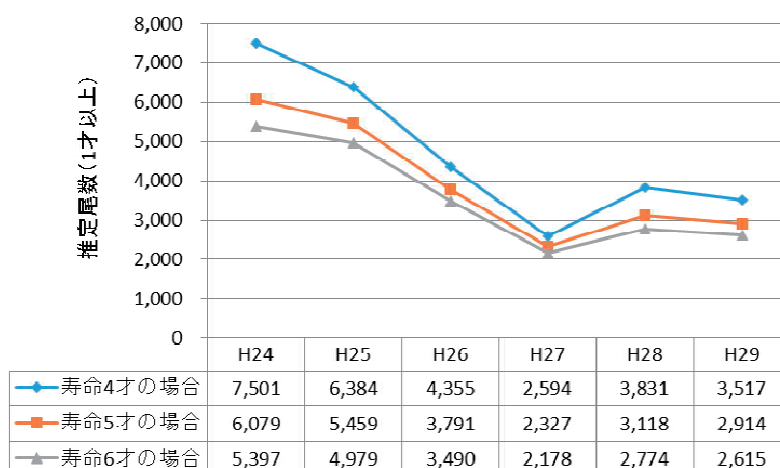


図1 クニマス資源量の推定結果

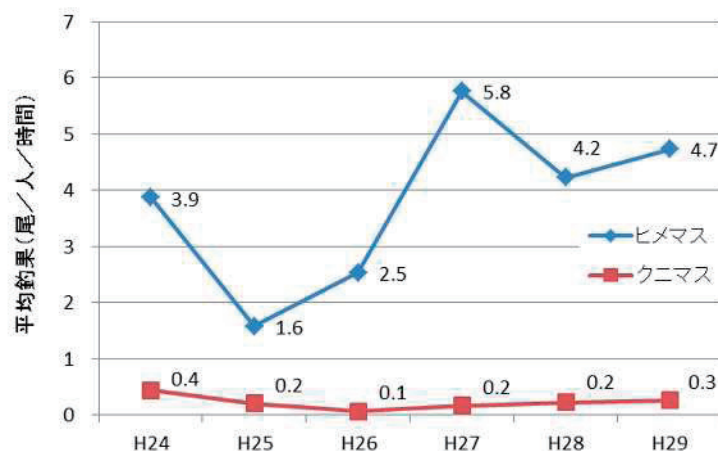


図2 試験採集時の平均釣果（尾／人／時間）